

# 令和元年度「東北大学学校ボランティア」活動報告

花坂 龍<sup>2</sup>・青木 貫<sup>3</sup>・神山 真由<sup>1</sup>・斉藤 和花<sup>2</sup>・細田 友恵<sup>2</sup>・後藤 武俊<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東北大学大学院教育学研究科

<sup>2</sup> 東北大学教育学部

<sup>3</sup> 東北大学工学部

本稿は 2003（平成 15）年より活動を継続している「東北大学学校ボランティア」事務局（以下、学校ボランティア）の 2019（令和元）年度の取り組みを報告するものである。

## 1 「学校ボランティア」概要

### 1.1 実施体制

学校ボランティアは、東北大学大学院教育学研究科・先端教育研究実践センターの事業の一環として行っている取り組みであり、同研究科の後藤武俊准教授を顧問とする事務局を設置して運営している。現在、事務局には東北大学の大学院生と学部生が 5 名所属しており、川内南キャンパス文科系総合研究棟 6 階に窓口を設置して活動している。詳しい活動状況については後述する。

事務局は仙台市教育委員会（以下、仙台市教委）と提携している。仙台市教委が仙台市内の小中学校のボランティア要請を集約したものを、事務局が受けとり、本学学生に対してメールなどの媒体で配信する。本年度はその他に、加美町、富谷市、亶理町、岩沼市、大衡村といった多くの教育委員会からもボランティア要請を受領し、学生に対して募集情報を配信した。仙台市外のボランティアの概要については「2. 2019 年度ボランティア活動状況」にて報告する。

### 1.2 ボランティア活動内容

要請のあるボランティア活動は、小中学校での学習指導補助や、配慮を要する児童・生徒の指導補助と休み時間の話し相手、部活動や課外活動の補助など多岐にわたる。

### 1.3 活動学生の募集及び派遣方法

事務局では東北大学の全学部・研究科の学生を対象として、以下の方法でボランティアの募集活動を実施している。

- ① メーリングリスト
- ② 先端教育研究実践センター前掲示板
- ③ 各研究科教務課への募集掲示依頼

## 2 事務局活動状況

学校ボランティア事務局（以下、事務局）のおこなっている活動の概要を説明する。事務局の基本業務は主に、広報活動と活動者向け対応（各種手続きを含む）に分類される。

### 2.1 メーリングリスト

広報活動の中心はメーリングリストの配信である。メーリングリストの対称は学部・研究科を問わず、全東北大生としている。メーリングリストへの登録は通年で随時おこなっているが、初めに学務情報システムや教育学研究科内の掲示板を利用して学生の登録を促している。登録学生に対しては定期的（月2, 3回程度）にボランティア依頼情報をメールで配信した。

### 2.2 ボランティア活動希望者説明会

昨年度に引き続き、今年度も活動希望者説明会は5月の1度のみ開催した。回数を1度のみにした理由は、年に複数回の説明会を実施するよりも、随時活動希望者を募集し、個人のニーズに沿った形で個別に説明会を実施する方法が、本学の学生の実態に適していると判断したためである。本来は年度の初めに開催される、仙台市教委による研修会への参加が活動開始の必要条件となっているが、それ以外の時期の活動希望者に対しては、事務局員が仙台市教委による研修会を受講し、その説明を代行している。

### 2.3 ボランティア活動者対応

ボランティア活動希望者および活動者に対しても支援活動をおこなっており、この活動が事務局の中心的な業務である。一般的な活動希望者対応の手順としては、まず学生からの活動希望をメール等で受信すると、事務局が活動希望学生に対してボランティア開始までの手続きのほか、交通費、保険に関する説明を行う。それと同時に活動希望先の学校にも連絡をおこない、まだ募集が継続されているかどうかや、学生に対して連絡してほしい事項などを確認している。また、学生のニーズに応じて、派遣先となる学校側にボランティア内容の詳細を確認するなど希望学生と募集学校間の調整役を担っている。実際に活動が開始した後も、必要があれば連絡を取り合い、学生のサポートを行う。

## 3 2019年度ボランティア活動状況

本節では、今年度のメーリングリスト登録者、ボランティア活動者の人数および所属構成をまとめ、学校ボランティアにおける活動学生の特徴について考察する。

### 3.1 ボランティア要請の状況

本学へのボランティア養成は以下のように分類されている。

表 1 仙台市教委からのボランティア要請の分類

A①	各教科における指導補助
A②	総合的な学習の時間における指導補助
A③	特別活動（学校行事，クラブ活動），道徳等の指導補助
A④	情報教育における指導補助
A⑤	学校図書館における指導補助
A⑥	放課後や休み時間等における児童生徒の話し相手，相談相手
A⑦	部活動指導補助
A⑧	そのほか，必要になる活動
B	にこにこボランティア
C	すくすくボランティア

上記分類の中で、Bのにこにこボランティアは「学校生活の中で配慮を要する児童に対する継続的、定期的な支援を行うボランティア」と定義されており、大学で教職課程又は心理学を履修した者、又は履修している者がボランティア学生の対象条件である。また、Cのすくすくボランティアは「発育測定や保健室において直接児童生徒に係る支援」であり、養護教諭免許取得に必要な科目を履修した者、又は履修している学生が対象のボランティア募集となっている。しかし、基本的に東北大学および大学院では養護教諭免許取得に必要な科目が開講されていないため、学生向けのメールでは掲載していない。

分類別の要請件数を図1に示す。ただし、あらかじめ要請が1件もなかった分類に関してはグラフから除いてある。本学に要請がある活動の中で最も要請多かった活動は、A①とA⑧であった。A⑧の具体的な内容は情緒学級における支援や別室登校の児童生徒への支援、放課後の学習支援等であった。本学へのボランティア養成は学習支援と特別支援系の要請が多く、9月と12月以降を除く、すべての月で依頼があった。

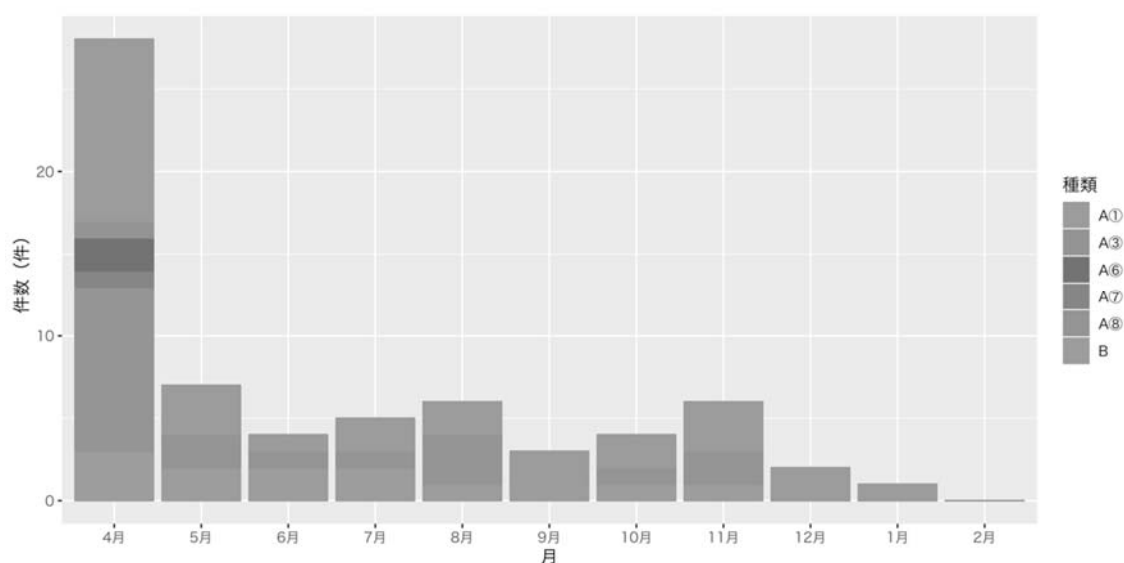


図 1 2018年度ボランティア要請件数

### 3.2 メーリングリスト登録者およびボランティア活動者の状況

メーリングリスト登録学生の所属別登録時期を図2に示す。所属別に分類すると文学部と教育学部の学生の登録希望が最も多い。大学が長期休会に入る直前の7月は、工学部など他学部の学生の登録希望が増加していることも見受けられる。

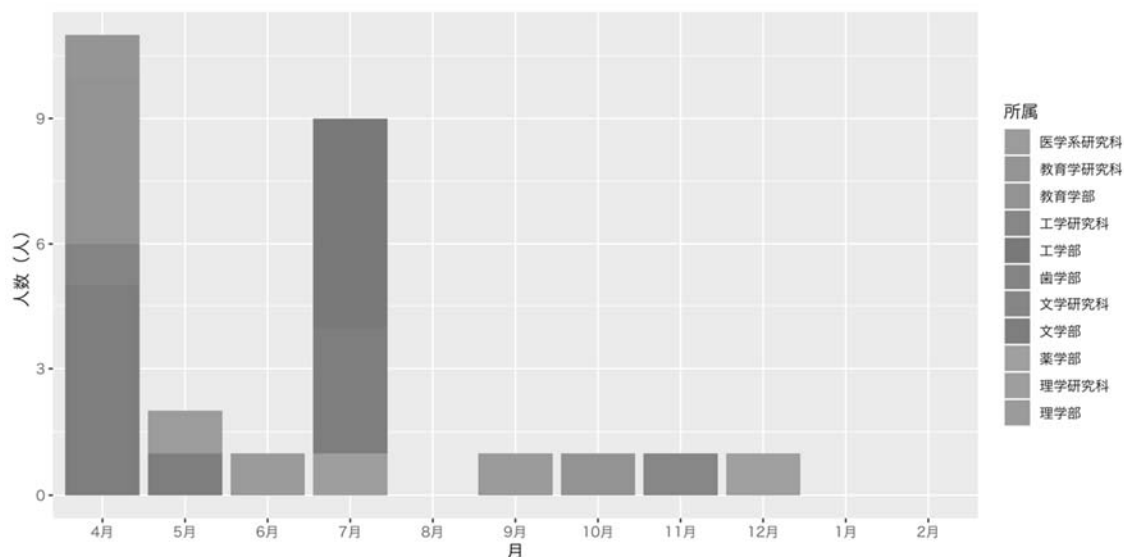


図2 メーリングリスト登録者の所属と登録時期

次に累積の登録者数の変化をグラフ化したものを図3に示す。4月の当初と長期休暇に入る直前の7月に登録希望者が増加するが、それ以外の月は平均して1, 2人程度の登録希望である。

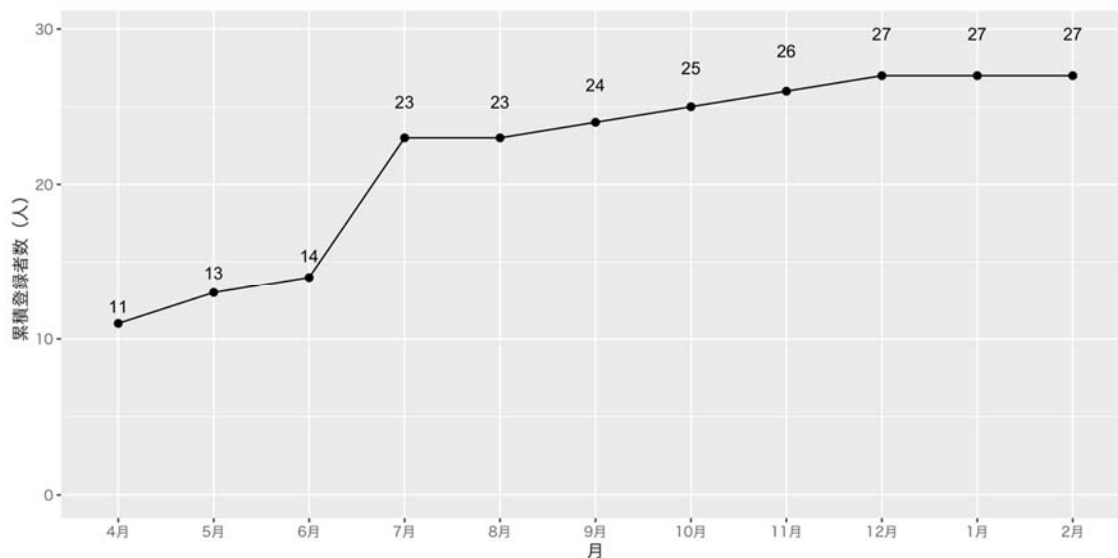


図3 累積登録希望者

### 3.3 ボランティア活動者について

活動希望者に人数とその所属を表2にまとめた。昨年度に比べて大幅に活動者が減少しているものの、引き続き昨年度と同様に教育学研究科所属の学生による活動希望が最も多い。

表2 活動者人数とその所属

学部・研究科	人数
文学部	2
法学部	1
理学部	2
教育学研究科	5

最後に仙台市外からのボランティア要請の一覧を示す(表3)。仙台市以外の宮城県内の自治体から来ている募集であり、そのすべてが学習支援(仙台市の分類で言えばA1かA8)である。

表3 仙台市外からのボランティア要請

ボランティア名	活動場所	活動内容
たいわサマースクールのボランティア募集	大和中学校・宮床中学校	生徒の学習を見守り、問題につまずいている生徒や分からない生徒のサポートをする
大崎学び支援ボランティア募集 学生ボランティア募集	各中学校区の中学校 東松島市内 ①東松島市図書館 ②野蒜市民センター	児童生徒の自学自習の場に付き添い、学習支援を行う 児童生徒の自学自習を見守り、支援する
互理町学習支援員(ボランティア)募集	互理小学校、逢隈地区交流センター、互理中学校	夏休み中に開催する学習会での小中学生に自主学習の支援
岩沼学び塾	岩沼市内小学校、岩沼北中学校	小：宿題取り組みの見守り 中：自主学習の支援
柴田町学び支援員	町内各小学校	自主学習の見守りと学習支援、担任補助
学び舎Tomiya学習支援員	富谷市給食センター2F	自主学習の学習支援
大衡村学び支援員募集	大衡中学校	全体的な学習支援、苦手教科の学習支援、自学自習の見守り

## 4 活動者の声

ボランティア活動に参加していただいた学生に対して、活動終了後に「活動報告書」という形式でアンケートを実施した。活動報告書では学生の活動内容、感想、困った点、今後の事務局に対する要望の4つを尋ねている。この報告書を本稿に掲載するにあたって個人名や学校名には匿名の処理を行っている。

Aさん(院生)	
活動内容	頻度：週に1回

	<p>対象：主に3年生、プログラミング教育実施の際には実施学年(4、6年)</p> <p>行ったこと：宿題の丸付け、授業補助、プログラミング教育実践への参画</p>
感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職に関する実地的な知識を得られた。</li> <li>・プログラミング教育実践に携わり、授業を練り上げる過程について学べた</li> </ul>

Bさん(学部生)	
活動内容	<p>頻度：数回程度</p> <p>対象：中学校の生徒1年生から3年生</p> <p>行ったこと：放課後学習教室のお手伝いを行った。教室に待機し、生徒から質問がある場合に回答した。</p>
感想	<p>活動場所が遠かったこともあり、なかなか参加する時間をつくることができなかった。</p> <p>参加生徒が多く、また各自で学習を進められる生徒も多かったため、直接教科について教える機会が少なかったことが残念だった。</p> <p>質問をしてくれる生徒が少なく、さらに話しかけてもリアクションが小さい生徒がおり、コミュニケーションをとるのが難しかった。</p>

Cさん(学部生)	
活動内容	中学生の放課後学習補助を、月に依るが1、2回。
感想	元気な中学生から活力をもらった。

Dさん(院生)	
活動内容	毎週金曜日、仙台市内の小学校にて、教職員の先生方の職務のお

	<p>手伝いをした。</p> <p>主に学校に整備されている ICT 機器の活用の補助、管理の補助を行った。</p>
感想	<p>小学校を対象とした研究を行なっているため、先生方の教え方や働き方を間近で学ばせていただき、非常に勉強になりました。</p>

E さん（学部生）	
活動内容	<p>小学校 6 年生の学芸会で行うアカペラの指導</p>
感想	<p>美しいハーモニーを目指して一生懸命歌う小学生の姿に感動しました。学ぼうとする姿勢、人の話を聞く姿勢も素敵でした。</p>
要望	<p>事務局の活動内容を存じ上げないのでイメージが掴めませんが、もっと頻繁に小中学校に協力できる機会があればいいなと思います。</p>

F さん（学部生）	
活動内容	<p>アカペラコーラス部として小学校の 5 年生の 1 クラスに 3 時間ほど伺い、小学生が学芸発表会で披露するアカペラの指導を行った。</p>
感想	<p>小学生がみんな積極的に話を聞いてくれて、私がピアノを弾きながら何回か一緒に歌っただけで格段にきれいなハーモニーが聴こえ、それを子供たちも感じてくれていたのが嬉しかった。ハーモニーが改善できただけでなく、ダンスや手拍子をつけたりみんな楽しんで工夫をされていて良かった。</p>

## 5 活動の振り返りと今後の課題

本節では学校ボランティア事業の運営を行う事務局として、今年一年間の活動を振り返り、今後のよりよい活動のために課題と来年度への抱負を述べる。

斉藤

今年度はマニュアル作りや研修を通じて、次の世代にバトンタッチをすることがメインの活動となりました。来年度はより多くの方にこのボランティア活動を知っていただけるよう、サポートしていきたいと思います。

花坂

2年目の事務局員としての活動でした。

1年目に比べて仕事を覚え、しっかりこなせるようになったと思います。しっかり、仕事を教えたりすることもやりぬくことができ、一安心です。来年の前期までとりあえず事務局員の活動を頑張っていこうと思います。今後もよろしくお願いします。

神山

今年の後期から事務局のメンバーに加わりました。わからないことばかりで、他のメンバーや後藤先生に一から教えていただき、サポートしていただいて、なんとか仕事をこなせるようになってきました。来年度は主力として活動できるように頑張ります。

後藤

今年も学生たちの強力により、大きな問題もなく活動を進めてくることができた。気になる点としては、事務局を通さずに活動を開始・終了してしまう学生が、今年も数件生じていたことである。これについては、来年度以降の課題としたい。

事務局の体制としては、今年度から青木君、神山さんの2名を新たに事務局に迎え活動を行ってきた。一方、これまで2年間事務局を支えてくれた斉藤さん、細田さんが今年で活動を終えることになった。とくに、斉藤さんには前期までの活動希望だったにもかかわらず、後期もアドバイザーとして残って頂いた。記して感謝を申し上げます。